

平成 25 年 №45
夏おぼん号

あきばさん

発行所
秋葉山 新井寺
272-0144
千葉県市川市新井
1丁目9の1
でんわ047-357-8319
FAX 047-357-8399
mail: info@shinseji.jp
http://www.shinseji.jp
郵便振替 00150-2-282968
発行人 新井寺

おことば

曹洞宗管長 福山諦法

今、私（わたくし）たちは、いのちに関わる多くの課題に直面しております。先の東日本大震災・大津波・東京電力福島第一原子力発電所の事故などからの復旧復興、原子力発電に頼らない安心できる社会の実現、いじめ、自死、格差、貧困、戦争などの問題への取り組みです。いずれも曹洞宗が掲（か）げる「人権の尊重、平和の確立、環境の保全」の願いに関わることがらです。人びとの苦難をわが事と受け止め、自分だけの快適さや便利さを求める社会を見直し、一人ひとりのいのちが大切にされる社会を築いていきましょう。そのために本年は、四摂法（ししょうぼう）の「布施（ふせ）」、物でも心でも惜しみなく分かちあう菩薩行（ぼさうぎょう）を柱として、「向きあう 伝える 支えあう」ことを具体的な目標といたします。道元さまは、「布施」とはむさぼらないことと示されました。それは、へつらうことなく、見返りを求めることなく、互いに生かしあう生き方です。

瑩山（けいざん）さまは、坐禅のとき、慈悲心（じひしん）溢（あふ）れる本来の生き方が広がると説かれました。無常迅速（むじょうじんそく）、生死事大（しじょうじだい）の人生にあって、一日一日を疎（おろそ）かにせず、み仏とご先祖のみ前で姿勢を調（ととの）え、息を調え、心を調え、静かに坐りましょう。

道のりは遠く険（けわ）しくとも、人びとの悲しみやつらさに向きあい、互いの気持ち素直に伝えて理解しあい、共に支えあう「布施」の菩薩行をすすめてまいりましょう。お釈迦さまは、一切の生きとし生けるものに無量の慈しみの心をおこすべしと示しです。

南無釈迦牟尼仏

平成二十五年四月一日

管長さまのおことば

当山住持

曹洞宗では、「管長告諭（かんちようこくゆ）」として、毎春、管長様（本年は 大本山永平寺の福山諦法（ふくやまたいほう）禅師様）より、檀信徒の皆様をはじめ 世の中の生きとし生けるすべての皆様の平和としあわせを祈念（いの）されて「おことば」がご垂示（すいじ）されております。

皆様方には、お盆にちなみ、この「おことば」を大切に受け止め、正しくご理解いただき、さらに信仰心を高められますよう、ご精進ください。

合掌



「ヒマワリ」 マツイレイコ 撮影
於、神奈川県座間市向日葵畑

おしゃか様の誕生祭 「ブツダ・ジャンテイ」

五月十八日(土)、新井寺において、「ブツダ・ジャンテイ」が開かれました。「ブツダ・ジャンテイ」は、ネパール(お釈迦さまご生誕の国)のみなさんによるお釈迦さまのご生誕を祝う行事です。ネパールやインドでは、五月の満月の日に「ブツダ・ジャンテイ」が開かれています。

新井寺で開かれた二回目の「ブツダ・ジャンテイ」には、今回もテラワード仏教の和尚様や日本で暮らすネパールのみなさんをはじめ五十名以上が集い、お釈迦さまのご生誕をお祝いしました。午前中に、ご生誕を祝い、さらに世界平和を祈るネパールスタイルの法要が勤められ、パリー語でお経も読誦されました。昼食には、ネパールレストランの特製のケータリングカレーライスを食しました。

午後は、駆けつけてくださったアルボムツレ・スマナサーラ長老のお話を拝聴することが出来ました。本号では、スマナサーラ長老のお話を紹介します。

生きとし生けるすべてのものが

しあわせでありますように

◇すべての生命のために

お釈迦さまは、ネパール王国のルンビニでお生まれになりましたが、決して「ネパール人」ではなく、すべての生命のために生まれた大事な存在。「この上もなく大事な人」です。また、ご生誕の地「ルンビニ」を「仏教徒のふるさと」とされ、その地を訪れた感動を光に包まれたようだと、心が解放されて「生まれてきてよかった」と感じると語りました。

◇人類はみな「ひとつ」です

お互いの文化や独自性(アイデンティティ)を主張しすぎると、ぶつかってしまい、世の中がうまくいかなくなる。国籍などの小さなワクで自分を縛ることなく、相手の気持ちを感じ、思いやるということ。お互いに、隔たりや垣根をつくることなく、同じ人類、「仲間」として協力し合って生きているという意識を大切にしなければならぬと呼びかけました。

◇光りがやく人間になりなさい

生まれによって
賤しい人となるのではない
生まれによって

バラモンとなるのではない

行為によって 賤しい人ともなり

行為によって バラモンともなる

『スッタニパータ(ブツダのことば)』

人間は「生まれ」によってではなく、「生き方」によって輝くことが出来る。「生き方」で性格を表し、光り輝く人間になりなさい」と説かれたお釈迦さまの言葉を紹介しました。その「生き方」について、お釈迦さまの「八正道(はっしやうどう)

①正見 ②正思惟 ③正語 ④正業
⑤正命 ⑥正精進 ⑦正念 ⑧正定」の
教えを説かれました。





スリランカ・台湾・日本の
テーラワダ仏教の和尚さま

○ 「正思惟（しょうしゆい）」

お互いにいのちを生き、生かして生きる道。生きとし生けるものに、慈しみの気持ちと思いやりもつこと。「我こそは」という考えではなく、人や生きものや自然を害することなく、その生命をまもることを考えて生きることが大切だと述べられました。

○ 「正語（しょうごへ正しい言葉づかい）」

話す言葉で、相手を思いやる気持ちをあらわす。嘘は、人を軽んじ、存在や生き方を否定する。少し乱暴でも、相手をも思う気持ちがあれば「愛語」。その人の

「ためになる」、その人を「しあわせ」にする、和を調える・・・、そういう言葉づかいを気をつけましょう。また、人の「いのち」は短い。故に、「むだ話」はよくないと、戒めました。

○ 「正業（しょうごうへ正しい行ない）」

生命を殺さない。迷惑をかけない。人や生きものや自然の生命の妨げとなることをしない。みんなが明るくしあわせであるような生き方だと語りました。

◇ おしやか様は「戦友」です

生きるということは、大変なことですが生きていくということは、思うにままならない、納得のいかないことばかり。「苦」の連続です。その苦しみの現実を正しく受け止めることが、生きることの第一歩なのです。けれども、どんな苦しみも「よき友」がいれば、乗り越えることが出来る。お釈迦さまは、「わたしを拝みなさい」とは決して言っておりません。お釈迦さまご自身が我われの「戦友」なのです。お釈迦さまの教えを実践するならば、とても真剣で真面目な優しい人になります。お釈迦さまの教えを実践するならば、お釈迦さまは、きっと、我われをまもってくださいますと、結ばれました。



スマナサーラ長老

スマナサーラ長老は、どっしりとしてあたたかく、大地と太陽の香りがするよなお方だと思えました。おそばにいると、なんともいえない安堵感に包まれるような気がします。そして、そのお話の根底には、「生きとし生けるすべてのものが、しあわせでありますように」という願いが込められていたように感じました。それが人を思いやるということ、「慈しみ」ということなのだと思えます。

編集小子しるす

慈悲の瞑想

生きとし生けるすべてのものが・・・
わたしの親しい人々が・・・
わたしの嫌いな人々が・・・
わたしのことを嫌っている人々が・・・
しあわせでありますように
悩み苦しみがなくなりますように
願いごとが叶えられますように
さとの光が現れますように
しあわせでありますように

大本山永平寺参拝のご案内

昨秋は、念願であった、お釈迦さまご生誕の地「ルンビニ」やネパールの仏蹟を参拝しました。本年は、曹洞宗の両大本山のひとつ、大本山永平寺をはじめ、北陸の曹洞宗にゆかりの深いお寺をお参りすることになりました。

永平寺では、坐禅やご本山の和尚様のご法話のほか、ご本堂での朝課（朝のお勤め）にお参りし、参加者皆様のご先祖様の追善供養もお勤めいただく予定です。凜とした空気の中の、何とも荘厳な雰囲気は、心に残るありがたいご供養になると思います。禅の食事作法のもと、修行僧がまごころを尽くしてつくった精進料理もいただきます。そのほか、御誕生寺（ごたんじょうじ・瑩山（けいざん）禅師様 ご生誕の街に建てられたお寺）・永光寺（ようこうじ・瑩山禅師様 開山・示寂（かいさんじじやく）お寺を開き、そのお寺で亡くなること）のお寺）・大本山總持寺祖院（現在の鶴見の總持寺の前身）を参拝する予定です。それぞれのお寺で、お経を読み、ご詠歌をお唱えしてお参りさせていたただきたいと思っています。

みなさまのご参加をお待ちしています

大本山永平寺参拝の旅

九月十六日（敬老の日）～十八日（水）

二泊三日の全行程バスの旅です

旅費 五万円

◎詳細は 別紙をご参照ください。

◎ご不明な点などは、お気軽におたずねください。

震災を忘れません 復興支援

「お魚エコたわし」

東日本大震災から三度目のお盆を迎えました。震災直後は、多くの方が、「他人事（ひとごと）」ではなく、「日本中の一大事だ」と被災地に思いを寄せていました。いまも、同じ気持ちを持ち続けています。でしょうか。復興への道のりは、物心ともに、ほんとうに長い道のりです。

わたしたちは 震災を忘れません。これからも 震災復興を応援し続けます。新井寺では、震災復興支援のひとつとして「お魚エコたわし」を販売します。

「お魚エコたわし」 一個 三百円

売上金額は 全額 「お魚エコたわし」

の作者のみなさまにお届けします

みなさまのご協力をお願いします

編集後記



子どものときからわたしの成長を見守ってくださっていた自転車屋さんのおぼあちゃんも亡くなりました。母校の先生が亡くなりました。「突然のお別れ」でした。人生は「いま」しかない。わたしたちは、過去でも未来でもなく、たったいまを生き、いまに生かされている。おふたりの突然のお別れは、「いま」ということの重みを切実に教えてくださる出来事でした。人さまが亡くなったと聞くと、「気をつけなければ・・・」と言う人がいます。何に気をつけるのでしょうか。食事に気をつける。日常生活に気をつける。わたしは、自分の生き方に気をつけたいと思います。「いま」に力を尽くす。「いま・ここ・このこと」をていねいに、大事にするということなのです。

「かけがえのない者の死は 多くの場合残された者にあるパワーを与えてゆく（星野道夫）」おぼあちゃんと先生がわたしにくださったパワーは、「いまを生きる」ということの重みであるように思います。おふたりに感謝のまことを捧げ、まっすぐにお線香を手向けてご供養したいと思います。

暑さきびしき毎日ご自愛ください。

編集小子 合掌